



2024年12月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（非連結）

2024年8月14日

上場会社名 株式会社ペッパーフードサービス 上場取引所 東
コード番号 3053 URL <http://www.pepper-fs.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 CEO (氏名) 一瀬 健作
問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 開発本部長 兼 総務人事本部長 (氏名) 猿山 博人 TEL 03(3829)3210
半期報告書提出予定日 2024年8月14日 配当支払開始予定日 ー
決算補足説明資料作成の有無 : 有
決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年12月期第2四半期（中間期）の業績（2024年1月1日～2024年6月30日）

(1) 経営成績（累計）

(%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年12月期中間期	6,982	△4.1	1	ー	24	ー	△19	ー
2023年12月期中間期	7,279	1.0	△375	ー	△383	ー	△505	ー

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2024年12月期中間期	△0.35	ー
2023年12月期中間期	△11.66	ー

(注) 「潜在株式調整後1株当たり中間純利益」については潜在株式は存在しているものの1株当たり中間純損失であるため記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年12月期中間期	5,367	3,051	56.8
2023年12月期	5,641	2,540	44.8

(参考) 自己資本 2024年12月期中間期 3,046百万円 2023年12月期 2,526百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年12月期	ー	0.00	ー	0.00	0.00
2024年12月期	ー	0.00	ー	0.00	0.00
2024年12月期（予想）	ー	ー	ー	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年12月期の業績予想（2024年1月1日～2024年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	13,983	△4.1	89	ー	108	ー	31	ー	0.53

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 中間財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（中間期）

2024年12月期中間期	59,411,200株	2023年12月期	54,723,300株
2024年12月期中間期	220株	2023年12月期	220株
2024年12月期中間期	57,415,424株	2023年12月期中間期	43,374,817株

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間貸借対照表	4
(2) 中間損益計算書	6
中間会計期間	6
(3) 中間キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 中間財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(中間損益計算書に関する注記)	8
(中間キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	8
(セグメント情報等の注記)	8
(重要な後発事象)	9

1. 当中間決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当中間会計期間におけるわが国経済は、各種政策の効果や雇用・所得環境改善の期待などから、内需を中心として緩やかな成長がみられました。その一方で世界経済は大幅な減速を回避しつつも、インフレ率の高止まりへの懸念やウクライナ及び中東地域の情勢による地政学リスクの高まりにより、先行き不透明な状況が続いております。外食産業においては、原材料価格の高騰や人材確保に係る費用の増加など、依然として厳しい経営環境が続いております。

こうした状況のもと、2024年は『漸進』を当社のテーマとして、お客様へ安心・安全な商品の提供を最優先課題としながら、運営店舗でのDXの取り組みや、新業態の企画、検討を進めながら、アジアを中心とした海外展開にも注力いたしました。

不採算店舗の撤退が進んだこと、既存店の売上対策が奏功したこと及び販売価格の適正化による原価率改善が行われたことにより、いきなり！ステーキ事業並びにレストラン事業のセグメント利益は前年同期に比べ大幅に改善しております。また、本社費用の削減効果もあり、全社での営業利益の黒字を達成することができました。

なお、営業外項目では、被害事故に係る店舗設備の損害に対する保険金受取額を20百万円営業外収益に計上いたしました。

これらの結果、当中間会計期間における売上高は6,982百万円(前年同期比4.1%減)、営業利益は1百万円(前年同期は375百万円の営業損失)、経常利益は24百万円(前年同期は383百万円の経常損失)、中間純損失は19百万円(前年同期は505百万円の中間純損失)となりました。

セグメントの経営成績は次のとおりです。

① いきなり！ステーキ事業

いきなり！ステーキ事業につきましては、引き続き調理技術、店舗サービス力の強化を行うとともに、期間限定商品の販売によるお客様数の増加や、大型コラボ企画の打ち出しによる、新たなファン層の獲得に努めてまいりました。また、アプリの改修及び会員限定の施策により会員様の新規獲得に尽力いたしました。

商品キャンペーンといたしましては、4月12日よりUS産『ブレードミートステーキ』を販売しました。6月1日からは、女性VTuberグループ『ホロライブゲーマーズ』とのコラボキャンペーンを開催し、オリジナルノベルティ付のメニュー販売やコラボグッズ販売、また、一部店舗にて店内装飾を施し、多くの新たなお客様層にご利用いただきました。

アプリ会員様向けの施策といたしまして、5月13日に肉マイレージのリニューアルを行い、従来よりもランクアップしやすく、早期にランクごとの会員特典をお受けいただける内容に変更しました。また、『肉初めクーポン』や『春のわくわくクーポン祭り』など、定期的にお得なクーポンを配信し、新規会員様の獲得だけでなく、既存会員様のリピート来店へと繋げました。

海外においては、既存店である、台北、フィリピンの売上高は好調に推移しております。また、インドネシア法人の『PT MAKMUR PRIMA STEAK(ピーティアー マクムール プリマ ステーキ)』社とFC加盟契約を締結しており、海外における事業拡大の可能性が広がっております。

この結果、当中間会計期間における売上高は6,761百万円(前年同期比0.3%減)、セグメント利益は596百万円(前年同期比64.9%増)となりました。

② レストラン事業

レストラン事業につきましては、メイン商品のブラッシュアップを図ってまいりました。「こだわりとんかつ かつき亭」では、『春のテイクアウト祭り』の開催や4月1日より期間限定で『春の御膳フェア』を行いました。

「炭焼きステーキくに」では、毎月29日の肉の日フェアの開催の他、6月より日替わりランチメニューをリニューアルしております。なお、不採算店舗の整理が完了したこと及び様々な施策により既存店の売上高が増加したことに伴い、前年同期と比べ大幅に利益改善が行われております。

この結果、当中間会計期間における売上高は192百万円(前年同期比58.5%減)、セグメント利益は16百万円(前年同期は45百万円のセグメント損失)となりました。

③ 商品販売事業

商品販売事業につきましては、「冷凍ワイルドステーキ」、「冷凍ガーリックライス」、「冷凍ハンバーグ」の他、家庭でもお店の味が楽しめるよう、オリジナルスパイスやソースを各大手モールにて出店販売いたしました。また、宅配専門レストランを展開するSBIC社とライセンス契約を締結し、ゴーストレストランとして6月17日より『いきなり！やきにく』の運営を開始しデリバリー販売を行っております。

この結果、当中間会計期間における売上高は27百万円(前年同期比7.3%減)、セグメント損失は4百万円(前年同期は6百万円のセグメント損失)となりました。

④ その他事業

その他事業につきましては、店舗FC開発や店舗サポート及び購買に関する間接収益部門の事業となっております。新規加盟店の出店が発生していないため、売上高が減少している状況が続いております。

この結果、当中間会計期間における売上高は0百万円(前年同期比80.6%減)、セグメント損失は55百万円(前年同期は49百万円のセグメント損失)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当中間会計期間末の総資産は、前事業年度末に比べて273百万円減少し5,367百万円となりました。これは主に、現金及び預金が63百万円減少したこと、売掛金が87百万円減少したこと、建物が42百万円減少したこと及び敷金及び保証金が16百万円減少したことによるものです。また、子会社の清算終了に伴い破産更生債権等が3,464百万円減少し、同額を貸倒引当金と相殺しております。

負債は、前事業年度末に比べて784百万円減少し2,315百万円となりました。これは主に買掛金が117百万円減少したこと、未払金が68百万円減少したこと及び借入金を全額返済したことにより借入金が558百万円減少したことによるものです。

純資産は、前事業年度末に比べて511百万円増加し3,051百万円となりました。これは主に、利益剰余金が19百万円減少したこと及び第13回新株予約権の行使に伴い資本金、資本剰余金がそれぞれ268百万円増加したことによるものです。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期業績予想につきましては、当中間会計期間の実績値等を踏まえて修正しております。詳細につきましては、2024年8月14日付「中期経営計画の進捗及び見直しに関するお知らせ」及び「2024年12月期中間期業績予想値と実績値との差異及び通期業績予想値の修正に関するお知らせ」を御参照下さい。

2. 中間財務諸表及び主な注記

(1) 中間貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 (2023年12月31日)	当中間会計期間 (2024年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,121	2,057
売掛金	591	503
商品	155	140
貯蔵品	34	32
その他	584	522
貸倒引当金	△30	△30
流動資産合計	3,456	3,226
固定資産		
有形固定資産		
建物	620	578
その他	142	134
有形固定資産合計	762	713
無形固定資産		
	55	60
投資その他の資産		
破産更生債権等	3,464	—
敷金及び保証金	1,139	1,122
その他	237	255
貸倒引当金	△3,475	△11
投資その他の資産合計	1,365	1,367
固定資産合計	2,184	2,141
資産合計	5,641	5,367

(単位:百万円)

	前事業年度 (2023年12月31日)	当中間会計期間 (2024年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	829	712
短期借入金	31	—
1年内返済予定の長期借入金	495	—
未払金	292	224
未払法人税等	68	52
契約負債	8	4
資産除去債務	50	33
債務保証損失引当金	61	70
事業構造改善引当金	1	1
その他	445	441
流動負債合計	2,285	1,540
固定負債		
長期借入金	31	—
資産除去債務	397	402
事業構造改善引当金	5	4
その他	380	367
固定負債合計	814	775
負債合計	3,100	2,315
純資産の部		
株主資本		
資本金	10	278
資本剰余金	3,231	3,499
利益剰余金	△710	△730
自己株式	△0	△0
株主資本合計	2,530	3,046
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△2	△0
繰延ヘッジ損益	△1	—
評価・換算差額等合計	△3	△0
新株予約権	14	5
純資産合計	2,540	3,051
負債純資産合計	5,641	5,367

(2) 中間損益計算書
(中間会計期間)

(単位:百万円)

	前中間会計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)	当中間会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)
売上高	7,279	6,982
売上原価	3,112	2,884
売上総利益	4,167	4,097
販売費及び一般管理費	※ 4,543	※ 4,096
営業利益又は営業損失(△)	△375	1
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	0	0
協賛金収入	10	5
受取保険金	0	20
賃貸借契約解約損戻入益	—	8
その他	5	8
営業外収益合計	17	43
営業外費用		
支払利息	6	1
賃貸借契約解約損	0	—
支払保証料	14	12
その他	3	6
営業外費用合計	25	20
経常利益又は経常損失(△)	△383	24
特別利益		
固定資産売却益	0	0
事業構造改善引当金戻入額	3	—
店舗譲渡益	54	—
特別利益合計	58	0
特別損失		
固定資産売却損	1	1
固定資産除却損	5	1
減損損失	137	7
特別損失合計	143	9
税引前中間純利益又は税引前中間純損失(△)	△469	15
法人税、住民税及び事業税	36	35
法人税等調整額	—	—
法人税等合計	36	35
中間純損失(△)	△505	△19

(3) 中間キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前中間会計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)	当中間会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前中間純利益又は税引前中間純損失(△)	△469	15
減価償却費	122	92
減損損失	137	7
長期前払費用償却額	2	2
貸倒引当金の増減額(△は減少)	298	△3,464
債務保証損失引当金の増減額(△は減少)	△5	8
事業構造改善引当金の増減額(△は減少)	8	△0
受取利息及び受取配当金	△1	△1
敷金、保証金及び建設協力金と相殺した解約違約金	7	—
支払利息	6	1
有形固定資産売却損益(△は益)	1	0
有形固定資産除却損	5	1
売上債権の増減額(△は増加)	137	87
棚卸資産の増減額(△は増加)	48	17
未収入金の増減額(△は増加)	146	50
破産更生債権等の増減額(△は増加)	△298	3,464
仕入債務の増減額(△は減少)	△128	△117
未払金の増減額(△は減少)	6	△46
未払消費税等の増減額(△は減少)	△21	0
預り金の増減額(△は減少)	19	△0
その他	△125	△25
小計	△99	95
利息及び配当金の受取額	1	1
利息の支払額	△6	△1
受取保険金	—	20
法人税等の支払額	△73	△71
営業活動によるキャッシュ・フロー	△178	43
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△25	△22
有形固定資産の売却による収入	0	0
資産除去債務の履行による支出	△66	△21
敷金及び保証金の差入による支出	△35	△35
敷金及び保証金の回収による収入	59	20
預り保証金の受入による収入	0	3
預り保証金の返還による支出	△18	△21
建設協力金の回収による収入	16	11
その他	△0	△10
投資活動によるキャッシュ・フロー	△69	△75
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△295	△31
長期借入金の返済による支出	△269	△527
株式の発行による収入	1,313	528
その他	△1	△1
財務活動によるキャッシュ・フロー	747	△31
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	498	△63
現金及び現金同等物の期首残高	1,888	2,121
現金及び現金同等物の中間期末残高	※ 2,387	※ 2,057

（4）中間財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

当社は、2022年12月26日付発行の第13回新株予約権（行使価額修正条項付）の行使に伴う新株の発行による払込みを受け、資本金及び資本準備金がそれぞれ268百万円増加しております。

この結果、当中間会計期間末において資本金が278百万円、資本準備金が268百万円となっております。

（中間損益計算書に関する注記）

※ 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前中間会計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)	当中間会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)
給料手当及び賞与	811百万円	759百万円
雑給	1,192	1,092

（中間キャッシュ・フロー計算書に関する注記）

※ 現金及び現金同等物の中間期末残高と中間貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前中間会計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)	当中間会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)
現金及び預金勘定	2,387百万円	2,057百万円
現金及び現金同等物	2,387	2,057

（セグメント情報等の注記）

【セグメント情報】

I 前中間会計期間（自 2023年1月1日 至 2023年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	中間 損益計算書 計上額 (注3)
	いきなり！ ステーキ事業	レストラン 事業	商品販売事業				
売上高							
外部顧客への 売上高	6,784	464	30	0	7,279	—	7,279
計	6,784	464	30	0	7,279	—	7,279
セグメント利益 又はセグメント 損失(△)	361	△45	△6	△49	260	△635	△375

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、加盟開発部門、営業サポート部門、購買部門等が含まれております。

2. セグメント利益又はセグメント損失の調整額△635百万円は、各セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又はセグメント損失は、中間損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

当中間会計期間（自 2023年1月1日 至 2023年6月30日）

（単位：百万円）

	いきなり！ ステーキ事業	レストラン 事業	商品販売事業	その他	計	財務諸表 計上額
減損損失	135	1	—	—	137	137

Ⅱ 当中間会計期間(自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	中間 損益計算書 計上額 (注3)
	いきなり! ステーキ事業	レストラン 事業	商品販売事業				
売上高 外部顧客へ の売上高	6,761	192	27	0	6,982	—	6,982
計	6,761	192	27	0	6,982	—	6,982
セグメント利益 又はセグメント 損失(△)	596	16	△4	△55	552	△551	1

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、加盟開発部門、営業サポート部門、購買部門等が含まれております。

2. セグメント利益又はセグメント損失の調整額△551百万円は、各セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又はセグメント損失は、中間損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

当中間会計期間(自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)

(単位:百万円)

	いきなり! ステーキ事業	レストラン 事業	商品販売事業	その他	計	財務諸表 計上額
減損損失	7	0	—	—	7	7

(重要な後発事象)

該当事項はありません。